

自然博物館  
ニュース

# A·MUSEUM

vol.26  
[2000.12.25]



ア・ミュージアム  
ミュージアムパーク  
茨城県自然博物館



## 天皇皇后両陛下御来館



つくば国際会議場での酸性雨国際学会の開会式に御臨席のために御来館された天皇皇后両陛下は、12月12日午後、岩井市立七郷小学校・南中学校の児童生徒約500名をはじめ、地元県民によるお出迎えの中、当館に御来館されました。

館内では、川俣勝慶茨城県教育委員会教育長が当館の概要を御説明した後、両陛下はバードウォッチングカフェから、コハクチョウをはじめとした菅生沼に生息している野鳥を御覧になりました。その後、中川館長の御案内により、松花江マンモス、ヌオエロサウルスや「自然のしきみ」の展示を御覧になり、最後に「ディスカバリープレイス」において、筑波山周辺の動植物など、茨城の特徴的な自然についての展示を御覧になりました。

第1回市民コレクション展  
「チョウの魅力を求めて」  
—2001年2月3日～2月25日—

今年度、丸山弘良氏より3,600点にのぼるチョウ類の標本を寄贈いただきました。博物館ではこれを機に、丸山氏のコレクションとこれまで博物館に寄贈いただいたチョウ類標本とをあわせて企画展示室において紹介することにしました。ぜひ多くの方々にお越しいただいて、これら市民採集家や研究者の研究成果をご覧になり、博物館の資料収集や研究活動へのご理解をいただきたいと思います。

◆博物館を支える寄贈標本

現在、自然博物館にはいったいどの位の標本資料が収蔵されているのでしょうか？博物館年報第6号によると、写真資料や文献資料を除く動物・植物・地学分野の標本資料は、平成11年度末で129,777点にのぼります。

それではこれら博物館の標本はどのようにして集められるのでしょうか。収集の方法は大きく分けて3通りです。それは調査研究活動に伴う採集、業者からの購入、市民や研究者からの寄贈です。そして当館の13万点に及ぶ標本の内訳は、採集が30%、購入が15%であるのに対し、寄贈は55%であり、数にしますと7万点をこえています。

博物館の最も基本的で重要な仕事は、資料を収集し、将来にわたり保存していくことがあります。その資料の大半が寄贈によるものであることは、博物館の活動が資料の収集の面から見ても、博物館を支えて下さる多くの協力者によって成

茨城県自然博物館の主な寄贈標本

分 野	No.	寄贈標本	点 数	寄 贈 者	寄贈年度
動 物	1	現生貝類標本	650	叶勝雄	平成4年度
	2	昆虫標本(チョウ類)	582	鶴町浩	平成4年度
	3	昆虫標本(チョウ類)	216	平林英男	平成5年度
	4	昆虫標本	627	横浜植物防疫所	平成6年度
	5	昆虫標本	1,130	藤村俊彦	平成6年度
	6	昆虫標本(ガ類)	292	工藤広悦	平成7年度
	7	昆虫標本(チョウ類)	3,645	丸山弘良	平成12年度
	8	昆虫標本(ガ類)	173	米田重玄	平成12年度
植 物	9	地衣類標本	約15,000	鈴木昌友	平成4年度
	10	コケ植物標本	約3,000	福田均	平成7年度
	11	植物さく葉標本	約45,000	鈴木昌友	平成8年度
	12	植物さく葉標本	約2,000	茨城県高等学校教育研究会生物部	平成12年度
地 学	13	岩石・鉱物・化石標本	約100	中村まさ子	平成3年度
	14	カコウ岩・ゼノリス他	150	河野雅英	平成4年度
	15	化石・鉱物標本	560	遠藤好	平成4年度
	16	化石・鉱物標本	202	水尾正弘	平成4年度
	17	アンモナイト	約300	解良	平成6年度
	18	岩石・鉱物・化石標本	255	峰須紀夫	平成8年度
	19	鉱物標本	163	山本亮一	平成8年度
その他の	20	マンガンノジール	約500	研究技術組合海底鉱物資源開発システム研究所	平成10年度
	21	鉱物標本	約250	原田明	平成10年度
	22	化石標本	1,915	細貝利夫	平成11年度
	23	鉱物・鉱石標本	約1,000	円城寺守	平成12年度
	24	植物生態写真	約2,600	野口多藏	平成7年度
	25	植物生態写真	約3,000	大内董	平成7年度
	26	植物生態写真	約3,000	須田直之	平成7年度
	27	植物生態写真	4,605	吉田あさ子	平成10年度
	28	植物生態写真	14,104	齊藤まゆ子	平成11年度
	29	昆虫関係学術文献	約6,000	長沢純夫	平成11年度

○印は市民コレクション展でその一部が公開されます。

会 期 平成13年2月3日(土)～平成13年2月25日(日)

開館時間 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日 (ただし、2月12日(月)は開館し、翌日は休館します。)

り立っていることが分かります。

左下に主な寄贈コレクションをあげました。鈴木昌友先生から贈られた合計6万点に及ぶ植物さく葉標本、地衣類の学術標本が収蔵標本資料の核となります。いかに多くの市民の方、研究者の方からの寄贈があったのかが分かるでしょう。

この場をお借りして寄贈者の方々に感謝申し上げるとともに、これからも博物館をみなさん手で支えていっていただければとお願いする次第です。

◆市民コレクション展の開催に向けて

丸山弘良氏より寄贈いただいた標本は、丸山氏が海外出張の際、現地でこつこつ採集したもので、東南アジアのチョウを中心とした3,645点です。今となっては収集が困難となつたトリバネアゲハ等が含まれています。それらの標本には採集地・採集日のデータがきちんと付されて、学術的標本としての価値も高く評価されるものです。

地方の昆虫誌は、その地に生活し観察している市民採集家や研究者の地道な活動があつてこそ、徐々に解明されていくものです。この企画展では、市民採集家や研究者の、これらの成果も広く紹介したいと思います。また、自然博物館が開催する企画展では初めて、昆虫同好会の方など広く茨城県民の方のご協力を得て行う市民参画型の展示会でもあります。これがきっかけとなって一般の方々の活発な博物館活動の参画をうながす布石となることを確信しています。そして、茨城自然誌研究の大きな流れが生じることを期待し展示の準備に取り組んでおります。

(資料課：久松正樹・小幡和男)



◀キシタアゲハの標本（丸山弘良氏寄贈）



▼かつての昆虫少年と、今の昆虫少年が集まつた1日（水戸昆虫研究会）

## 研究ノート●博物館における幼児教育活動支援プログラム

本館の団体利用の内訳を調べてみると小・中学校の利用が最も多いのですが、その次に多いのが幼稚園や保育園の団体となっています。

平成11年度においては学校、幼稚園、保育園関係で約9万2千人の来館がありましたが、そのうち幼稚園や保育園からの入館はそのおよそ4割にあたる約3万5千人となっています。

小・中学生に対する館内での活動を支援するプログラムについてはすでに開発を進めているところですが、幼児に対する対応も重要視していかなくてはならないと考えています。

また、子どもたちの幼児期からの心の成長を考えると憂慮すべき問題がたくさんありますが、心の成長の糧ともなる生活体験や自然体験などが少なくなっていることも見逃せません。

そこで、当館において自然の中での遊びを中心とした幼児向けの楽しいプログラムを開発することで、子どもたちの「生きる力」の基盤を養うためのお手伝いができるであろうと考えました。

### ●幼児期における自然体験の大切さ

子どもたちに「生きる力」の基礎をはぐくもうとするとき、自然博物館ができるることは何であるかを考えますと、「生きる力」の基礎とも言うべき、生命を尊重する心、自然に感動する心を育てていくことだろうと考えます。そのためにも当館野外での活動を充実させ、身近な自然体験の支援をしていきたいと考えます。

### ●開発中のプログラム1

#### 「森で遊ぼう」



これは2つのプログラムからできています。ひとつは野外の雑木林を利用し、そこで生活する生き物のまねをしあいながら、生き物について関心をもたせ身近な自然に対して楽しく興味をもたせるこをねらったプログラムです。

2つ目は自然の中にかくれているいろいろな形や模様を雑木林の中からさがし出すことで、ふだん見過ごしてしまうような自然に気づかせることをねらいにしたプログラムです。

### ●開発中のプログラム2

#### 「落ち葉でお面をつくろう」



野外の雑木林を利用し、いろいろな落ち葉をさがし、その形を利用して動物のお面を作って遊ぶというプログラムです。これは葉には様々な形があることに気づかせ、落ち葉をとおして身近な自然に対して関心をもたせることをねらいにしたプログラムです。

### ●プログラムの試行

新治村立新治幼稚園の協力を得て、これらのプログラムを試行することができました。今回は試行ということで進行は当館の職員で行いました。その結果、時間的なことや進め方で改善しなくてはならない点も見つかりました。

### ●活動のようす「森で遊ぼう」



この動物は何か？ヘビかな、モグラかな？2つのチームに分かれてのジエスチャーゲーム。



森の中からいろいろな形をさがそう。まるい形や三角、四角。どんな形が見つかるかな？



林の中でいろいろな形を見つけたよ。まるいもの、長いもの、……。四角いものがあまり見つからないなあ。

### ●活動のようす「落ち葉でお面を作ろう」



どんな形の葉があるのかな。細長い葉、丸い葉、針のような葉、いろいろな形があるんだね。



ひろってきた落ち葉でお面を作ろう。細長い葉はウサギの耳かな。とがった葉は動物のひげみたいだね。



こんなお面ができたよ。みんなで楽しむよ。

### ●今後の取り組み

幼稚園や保育園に協力していただき、今度は先生方にプログラムを活用して活動を進めていただくことで、問題点を探ってより良いプログラムにしていきたいと考えています。

このようにして「生きる力」の基礎とも言うべき豊かな心の育成を目指し、小中学校はもちろん、幼稚園や保育園との連携も強化していきたいと考えています。

(教育課：椿本 武)

## 展示品紹介●出世魚（ブリの成長）の展示



モジャコ

本館1階ディスカバリー・プレイスの右奥「茨城の自然」の中に「茨城の動物」の展示コーナーがあります。その中央にひときわ目を引く大きな魚のはく製標本が4体展示されています。ブリ、ヒラメ、スズキ、サケの4種です。そのうち、ブ



リとスズキは出世魚と呼ばれる魚です。出世魚とは、成長とともに呼び方が変わる魚です。ここでは、よく知られているブリについて紹介しましょう。

ブリは、代表的な出世魚です。孵化して間もない小さな稚魚を「モジャコ」と

呼びます。からだに縦のしま模様があり、かわいらしい姿です。春に生まれた稚魚は、流れ藻に付いて生活します。沖を流れる流れ藻には、モジャコばかりではなく、蟹の幼生やメバルの稚魚、時にはトラザメの卵など様々な生き物が見られます。流れ藻は、海面を漂い海流によって流されていきます。そしてモジャコも生まれた場所から遠く流されてくるのです。夏になると流れ藻から離れ穏やかな内湾に移り住み成長します。若魚まで成長した魚たちはやがて外洋に出て回遊生活をするようになります。このころには、プランクトン食から魚肉食へと食性が変化してきます。回遊生活をするようになったブリは、からだが大きくなるにつれて広い範囲を回遊するようになります。そして、大きなものは1mを超える大きさにまで成長します。

出世魚としてのブリの呼び名は、関東と関西では違っています。関東では、小さいものから「ワカシ」「イナダ」「ワラサ」「ブリ」と呼び、関西では「ツバス」「ハマチ」「メジロ」「ブリ」と呼びます。しかし、最近一般に「ハマチ」と呼ばれるのはブリの養殖個体のことのようです。

ブリに似た魚にカンパチとヒラマサがあります。カンパチは、眼の上に黒い線があることで区別できます。また、ヒラマサとは胸鰭と腹鰭の大きさの違いや頭の形の違いから区別できます。本館第3展示室の水槽にはブリとカンパチが飼育されています。違いを比べてみてください。

(教育課：中島政明)

## 野外だより●どんぐりの森

この森は、博物館野外の中心にあるとんぼの池の南側台地の斜面を中心に広がっています。クヌギ・コナラを中心としたところどころに、アカメガシワ、ハリギリ、イヌシデ、ハンノキが混じり、フジが高木の梢まで覆っているところもあります。台地の東側には、モウソウチクの林があります。

この台地の春はヤマザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラなどの野生のサクラが見事な花を見せ、林床ではタチツボスミレ、チゴユリ、ナルコユリが愛らしい花を咲かせます。また、秋にはヤマジノホトトギスが斜面を彩り、ガマズミの赤

い実が美しく映えます。自然発見工房に近い斜面では、クヌギ・コナラなどのどんぐりも見つけることができます。さらに、シダ植物多くの種が見られるなど園内ではもつとも植物相の豊かな林です。

今、季節は冬で雑木林の木々も葉を落とし魅力も薄いようですが、注意深く観察してみると樹形（木の形）や冬芽、葉痕（葉の落ちたあと）など他の季節ではあまり意識されないものが見つけ易くなり面白いものです。みなさんも冬の雑木林で新しい発見をしてみませんか。

(教育課：櫻井稔郎)



どんぐりの森

## 歳時記●オーロラを見たい人、この冬がチャンスです。

皆さん、オーロラを見たことはありますか？今、オーロラを観測するには大変良い時期を迎えてます。さて、それではこのオーロラですが、いつたいどのようにして起こる現象なのでしょうか。

太陽は、可視光線や赤外線、紫外線などの電磁波とともに、高エネルギー状態の粒子を宇宙空間に放出しています。こ

れによってできる風の流れが太陽風です。地球の近くまでやってきた太陽風は、磁極を中心とした帯状の領域（オーロラオーバル）に侵入し、高度100～250km付近で大気中の酸素や窒素の粒子に衝突します。その時放たれたエネルギーが光となって輝きます。これがオーロラなのです。

太陽表面では、時折フレアと呼ばれる

爆発現象が生じ、普段より強い太陽風が放出されます。このようなときには、激しく波打つような活動的なオーロラが見られるようになります。また、非常に大規模なフレアが起こったときには、低緯度地域でオーロラが発生することもあります。今年は4月7日と11月7日に、北海道で真っ赤なオーロラが観測されました。日本でオーロラが確認されたのは、実に8年ぶりのことでした。本州以南では、過去に長野県などでも出現の記録があります。

今年、太陽は11年ぶりに活動のピークを迎えています。フレアが発生する回数も増え、オーロラ観測の好期なのです。オーロラが見たいという方、ぜひオーロラの観測地で有名なアラスカのフェアバンクスやカナダのイエローナイフにお出かけ下さい。これらの場所はオーロラオーバルの北縁に位置し、活動的なオーロラが大変見やすい場所なのです。でも、夏はよしたほうがいいでしょう……なぜなら、夜が大変短いですから。

(資料課：高橋 淳)



[オーロラ]

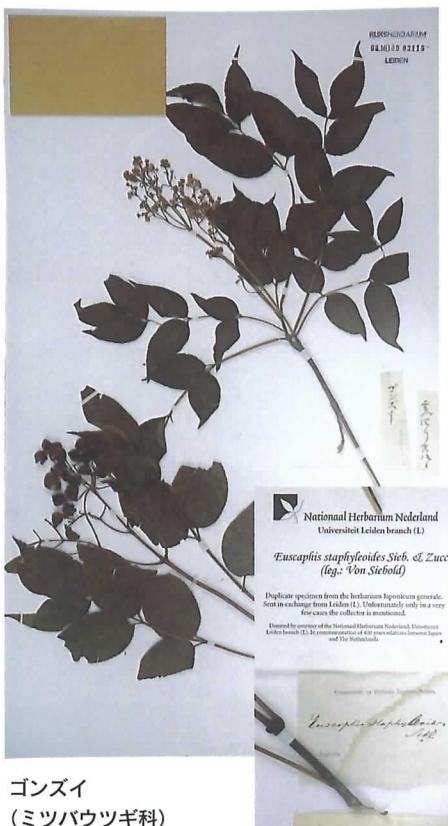
活動的なオーロラはじっとしていない。左右から光のカーテンが拡がって、ひとつになった。  
(1999年12月、イエローナイフにて)



[皆既日食中のコロナ]

コロナから宇宙空間に放出された高エネルギー粒子の流れが太陽風である。  
(1998年2月26日、カリブ海アルバ島にて)

## 収蔵品紹介●シーボルト標本 ライデン国立植物標本館から寄贈された植物標本



ゴンズイ  
(ミツバウツギ科)

No	和名	科名	学名
1	アケビ	アケビ科	<i>Akebia quinata</i>
2	ヤブツバキ	ツバキ科	<i>Camellia japonica</i>
3	サカキ	ツバキ科	<i>Cleyera japonica</i>
4	ヒサカキ	ツバキ科	<i>Eurya japonica</i>
5	ゲンノショウコ	フウロソウ科	<i>Geranium nepalense subsp. <i>thunbergii</i></i>
6	ゴンズイ	ミツバウツギ科	<i>Euscaphis staphyloides</i>
7	イイギリ	イイギリ科	<i>Idesia polycarpa</i>
8	クチナシ	アカネ科	<i>Gardenia jasminoides</i>
9	オトコヨモギ	キク科	<i>Artemisia japonica</i>
10	カキラン	ラン科	<i>Epipactis thunbergii</i>

自然博物館では、今年の3月～6月に第18回企画展「シーボルトの愛した日本の自然」を開催し、シーボルトの偉大な日本自然史研究の業績を紹介しました。その際、企画展開催を記念して、ライデン国立植物標本館よりシーボルトの植物標本の寄贈を受けました。ライデンから直接シーボルトの植物標本を受け入れるのは、日本では当館が初めてのことです。

標本はクチナシ、サカキ、ゴンズイ、アケビなどのさく葉標本10種10点です。これらは、シーボルトと同時代にライデ

ン国立植物標本館の第2代館長を務めたミケールによって整理されたシーボルト標本のデュプリケイト（同時に収集した同種の標本の控え）です。標本には全てミケールの自筆ラベルが付いています。

日本には江戸時代の標本はほとんど存在しないので、約170年前に作られたこれらの標本のもつ歴史的な価値はたいへん高いものです。当館では、この標本を貴重な収蔵品として保存し、研究に役立てたいと考えています。

(資料課：廣瀬孝久)

館職員レポート◎ ハードロックは好きですか  
小池 渉 (資料課・地学研究室)

自然博物館において私が担当しているのは、地学分野の中でも岩石や鉱物などのいわゆる“ハードロック”です。地学収蔵庫で保管している標本の半数、1万点余りの資料を担当しています。特に深成岩（カンラン岩）を専門に研究していく、山深い沢を歩きながら崖から落ちてきた転石群（ローリングストーンズ？）に大型ハンマーで立ち向かっています。

ところで何が“ハードロック”かというと、やたらと固く、重い資料が多いことです。野外調査の時には、採集した岩石を20kg～30kgずつリュックに詰めて運びます。そして10日間くらい調査すると、博物館に20箱くらいの重い荷物を送ります。

また、長野県の山中で道ばたに落下し

てきた枕状溶岩の巨塊を偶然見つけ、嬉々として切断して運んできたこともあります。しかし、2トン程度もあって収蔵庫には入らず、展示で使用されるまでの間、バックヤードの一角にこっそり置いています。私は「重い！」「硬い！」「大きすぎる！」ものばかり収集していくので、資料整理担当のH主任学芸員から睨まれる、肩身の狭い毎日です。どうも博物館職員になってから、展示を考えて、大きい標本を採集する習慣がついてしまいました。

ところで、今年は第20回企画展「生きものがはぐくんだ鉱物」の準備スタッフのチーフを担当しました。「鉱物」と「生物」とのかかわりとをどのように表現するかに苦心しました。でも企画展を



調査中にはヒグマに出会うことも…(写真は足跡)

担当すると、全く新しい世界に触れて、自然に対する視野が広がります。北海道から九州まで調査に行き、文献を収集し、多方面の方々から情報や助言を戴きながら、少しずつ展示を組み立てていきます。先進的な学術分野を取り上げたため、研究者たちの考え方にも大きな違いがあり、展示で取りあげる上でさまざまな葛藤もありました。また、研究者による関連論文の掲載が遅れたために紹介できなくなつたものもあります。展示で紹介できるのはその一部に過ぎませんが、みなさんも企画展をご覧になるときには、その背景にどんなことがあるのかに想いを巡らしてみてはいかがでしょうか。



長野県上田市の山中でみつけた枕状溶岩の巨岩



蛇紋岩でできた夕張岳



千代田町での採集風景



巨岩が崩れたあとに現れた枕状溶岩の露頭

コラム by director NAKAGAWA ◎対話と連携

第48回全国博物館大会は平成12年11月9日・10日の2日間、仙台市で行われました。全国から400名を越える博物館人たちが集まり、一堂に会して博物館事業の全般について精力的に討議を行いました。

中でも、今回はシンポジウムとそれに関連する分科会のテーマに「21世紀の望ましい博物館の在り方」が取り上げられましたので、例年にもまして熱い議論が繰

り広げられました。それというのも、このテーマは文部省の委嘱により、平成10年から3年間にわたって日本博物館協会が取り組み、その草案を初めて問う場でもあったからです。キーワードは「対話と連携」、市民・学校・地域等との真のリンクをこそが博物館の新世紀を拓くというものです。

私は会場の熱気と反響に現代の博物館のおかれている厳しい環境とそれに立ち

向かう博物館人の姿勢に改めて感銘しました。



トピックス○9~11月

## ネイチャーウォークラリー大会 10月22日(日)



昨年に引き続き、第2回目のネイチャーウォークラリー大会が開催されました。当日は、県内外各地から約500組・2,000名もの家族連れやグループの方が参加して、博物館の野外施設と、菅生沼を挟んで対岸にある水海道あすなろの里につくられた12のコースを、自然や博物館に関する様々な問題を解きながら、歩きました。あいにくの曇り空で、肌寒い

日でしたが、あすなろの里で用意された豚汁を味わったり、予期しなかつた問題を見て、あわてて観察ゾーンに戻つたりするなど、皆さん思い思いに秋の休日を楽しんでいました。総合優勝者の大島次男さん（石下町）をはじめ、上位入賞者には、地元岩井市の特産品などの賞品が贈られました。

## 企画展記念シンポジウム「人と温泉とバイオ」 11月12日(日)

平成13年1月14日まで開催している企画展「生きものがはぐくんだ鉱物—時代は、今、バイオミネラル」を記念して、木暮金太夫氏（日本温泉協会会長）・三田直樹氏（工業技術院地質調査所主任研究官）・野中祐子氏（雌阿寒温泉野中温泉別館）の3名をパネリストとしてお迎えし、記念シンポジウムが開催されました。木暮氏からは日本の温泉について、三田

氏からは温泉とバイオミネラルの関係について、そして野中氏からは、オンラインの自然と、温泉旅館での仕事についての講演があり、最後に温泉とバイオミネラルの不思議な関係について話し合いました。参加者の皆さんも、興味の尽きない話に、熱心に聞き入っていました。



## 第3回菊花展示会「菊花とその仲間たち」 11月7日(火)~21日(火)



博物館のセミナーハウスにおいて、今年で第3回となる、菊花展示会「菊花とその仲間たち」が開催されました。この展示会は、岩井市菊花会などの協力を頂き、厚物、管物、松作り、盆栽作りのような、多様な菊花を152鉢展示したほか、キク科の植物についての展示解説も行いました。出品され

た菊花のうち、約半数の67鉢は、岩井市立七郷小学校児童が岩井市菊花会のみなさんから指導を受け、1年間丹念に育てたもので、中には大人顔負けの素晴らしい花も見受けられました。

### 水系だより

第三展示室で展示している魚の中で、今回展示水槽内において、初めて繁殖に成功した魚がいます。その魚とは、巣を作ることで知られている「イトヨ」です。

イトヨは自然界では一般に4~6月頃が産卵期と言われていますが、水槽という自然界とは異なる環境のためか、今までに産卵ラッシュを迎えています。

9月のある日のこと、水槽を見回つてみると、前日までは何もなかった小型水槽の隅のほうに、緑色の塊がありました。近づいてよく見てみると、コケや水草を使って巣を作っていたのです。

今までに予備水槽ではイトヨの巣、産卵に成功したことはありましたが、展示水槽では魚が落ち着かないためか、一度も見られていませんでした。

初めてのことで、無事に産卵するか心配でしたが、数日後に巣を取り上げてみると、卵の塊がしっかりと入っていました。

卵は予備水槽に移して飼育を始め、今では体長1cmほどの稚魚に成長しています。また、小型水槽では引き続き巣、産卵を繰り返しているので、予備水槽は卵、稚魚が増えてまるでベビーラッシュのようです。（大洗水族館：黒澤紗智子）



巣中のイトヨ

## インフォメーション（1～3月の行事）

### 自然観察会

1月28日（日）

『市場の魚と港の鳥を観察しよう』

（北茨城市平潟港）

（対象：親子）

2月24日（土）

『天体写真をとってみよう（博物館屋上・夜間）』

（対象：小学4年生以上）

\*一眼レフカメラをご持参の方に限ります。

3月25日（日）

『地衣の観察会（筑波山）』

（対象：小学4年生以上）

\*現地集合。定員は観察会ごとに異なります。

### 自然講座（定員：40名）

1月7日（日）13:00～15:00

『真珠と真珠貝の心しき（企画展記念講座）』

（対象：小学5年生以上）

### えいが会（定員：300名）【3階映像ホール】

1月21日（日）『ジングル・オール・ザ・ウェイ』

2月18日（日）『ドン松五郎の生活』

3月18日（日）『ウルトラマンティガ The Final Odyssey』

上映時間 14:00～

入場無料（当日朝9:30から整理券を配布します。）

### その他のイベント

#### 日本古生物学会開催記念講演会

「昔、茨城は熱帯の海だった!?」

1月28日（日）13:00～15:00

講師：筑波大学地球科学系教授 野田浩司氏

対象：小学生以上 定員：300名

（事前に電話でお申し込みください。）

#### サイエンスデー「宇宙・科学の日」

3月20日（火）（無料入館日・イベントあり）

### 【交通案内】



### 自然教室（定員：40名）

1月13日（土）10:00～12:00

『魚のからだを調べてみよう』

2月10日（土）10:00～12:00

『土のひみつをさぐろう』

3月10日（土）10:00～12:00

『貝化石を掘ってみよう』

（対象：小学生以上）

#### 〔観察会等への申込方法〕

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います（講座は先着順）。

また、本号発行時には受付を終了しているものもあります。あらかじめご了承ください。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館  
TEL 0297-38-2000

### サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジルームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

#### テーマ

1月『けんぴきようで見る化石の世界』

2月『魚拓にチャレンジ』

3月『種の不思議を調べよう』

時間 午前の部 10:30～12:00

午後の部 14:00～15:30

（12～2月は午後の部のみ実施）

受付 開始1時間前から、スタジルーム前で受け付けます。希望者多数の場合は抽選を行います。

### 自然なんでも相談

自然についてわからないこと、ふしぎだな、と思っていることなど、なんでも気軽にご相談ください。

相談方法 博物館あてに質問を郵送するか、直接ご来館ください。

相談日 1月14日（日）

2月11日（日）

3月11日（日）

場所 ティスカバリー・プレイス観察コーナー

時間 13:30～15:00

■は休館日です。

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3				
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3				
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 常磐自動車道谷和原I.Cから20分。
- JR柏駅で東武野田線乗り換える、東武野田線愛宕駅～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分。
- 常磐自動車道谷和原I.Cから20分。



【開館時間】  
午前9時30分から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

### ご利用案内

#### 【入館料】

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
大人	520円（420円）	200円（100円）
高校・大学生	320円（200円）	100円（50円）
小・中学生	100円（50円）	50円（30円）

（注）（ ）内は団体料金（20人以上）

企画展開催期間中については別料金となります。

つぎの日の入館料は無料です。

●11月13日（茨城県民の日） ●3月20日（春分の日）

●4月29日（みどりの日） ●6月5日（環境の日）

●高校生以下の児童・生徒は、毎月第2・第4土曜日は入館無料です。（但し、春・夏・冬休み期間中を除く）

#### 【休館日】

●毎週月曜日（12月28日（木）～1月1日（月）は休館します。また、1月8日（日）、2月12日（月）は開館し、翌日休館します。）

季節に比べれば空いている館内をゆっくり見学できるなど、良いところが沢山あります。あなたも博物館で新世紀の自然環境について考えてみませんか。（N.I.）

#### 【編集後記】

今年も自然博物館は、大変多くの方にご来館いただきました。「博物館はいつも混んでいるから、ゆっくりと見たい」、

という方もいらっしゃるのではないかでしょう。実は、冬こそが是非お勧めしたい季節なのです。菅生沼に飛来するコハクチョウを観察し、また暖かく、他の

## 自然博物館ニュース A·MUSEUM(ア・ミュージアム)

企画・編集：ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課／発行2000年12月25日  
〒306-0622 茨城県岩井市大崎700番地 TEL0297-38-2000  
ホームページ <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>  
E-mail [webmaster@nat.pref.ibaraki.jp](mailto:webmaster@nat.pref.ibaraki.jp)